

## 666 第19回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

### やさシティおもてなシティ推進会議

1 日 時 令和4年3月28日(月) 15時00分～16時00分

2 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン

3 出席者 委員11名のうち6名出席

4 傍聴者 なし(傍聴希望者なし)

5 会議経過 (1) 開会 15:00

(2) 挨拶

傍聴確認(事務局より傍聴者なしとの報告)

議事録署名確認

(名簿順につき尾崎委員に依頼→了承)

資料確認(配布漏れなし)

(3) 議事

①令和3年11月以降の事業経過について

②東京オリンピック・パラリンピック推進事業の

総括について

③今後の取り組み方針について

(4) 閉会 16:00

#### 6 議事概要

##### ○長江会長

皆さん、こんにちは。本日は第19回目となります松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティおもてなシティ推進会議にお集まりいただきましてありがとうございます。また今回が最後となりますが、7年間もの長い間、ご協力いただきありがとうございました。

それでは、次第に沿いまして進めさせていただきますが、委員の皆様方のご協力を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

コロナウイルスの関係もでございますので、議事につきましては一括して事務局よりご説明をしていただきました後、委員の皆様方からのご意見をいただき

たいと思います。

それでは、事務局から説明をよろしく願いいたします。

(事務局から一括して説明)

#### ○長江会長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの事務局からの説明に対しまして、委員の皆様からご意見や感想でも結構ですとお伺いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、太下委員、いかがでしょうか。

#### ○太下委員

まずは7年にわたり、関係者の皆さん、大変ご苦労さまでした。コロナということで、延期にもなり、いろいろ計画変更等もあり、大変だったかと思えますけれども、総じてうまくいったのではないかなと思っております。肝心なのは今後だと思えます。先ほど事務局からも、これからの新しい総合計画の中にもレガシーを盛り込んでいきたいというお話がありましたので、ぜひそういう形で、単なるイベントとしてあったということだけではなくて、きちんとレガシーがこの松戸に残るような形で取り組んでいっていただきたいと思えます。

強いて、欲を言えば、私の専門が文化ということもありまして、せっかくホストタウンとも交流のきっかけができたわけですので、これまでオリンピックの文化プログラムとしてはあまり十分できなかった部分があると思えますので、ぜひこれを機会に今後も進めていっていただければと思っています。

以上です。

#### ○長江会長

ありがとうございました。

それでは、尾崎委員、いかがでしょうか。

#### ○尾崎委員

今、太下委員がおっしゃられたように、まずはこの7年間の活動、それから、こういう活動にお声がけいただいて、参加させていただいたことに感謝と敬意を申し上げたいと思えます。ありがとうございました。そして、お疲れさまでした。

つい先日、スポーツ庁から、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーということ踏まえて、第3期スポーツ基本計画というのが発表になりました。いろいろなところでオリンピック・パラリンピックが1つの取っかかりとして、決してスポーツのところだけではなくて、教育、あるいは健康、地域づくりというところに進んでいくのだらうなと思えますので、ぜひともその初年度といいますか、そのスタートアップのところをしっかりと、我々もやらなけれ

ばいけないと思いますし、行政の皆さんもそこをしっかりとお願いしたいと思います。

このオリンピック・パラリンピックというスポーツのイベントというのは、その期間に必ずやらないといけないということがありますので、あまり問題の先送りがされにくい、そういうプロジェクトだったと思います。何月何日、何々やると決めたら、どんな弊害を乗り越えても、どれだけ残業をしようとも、やらなければ大会が開けない。こういうようなところの取組は結構大事なところかなと思います。いろいろな部分で来年にしようかな、ちょっと蓋しておこうとかあるんですけども、そういう部分が今回やってきたことのレガシーを残すにはすごくポイントではないかなと思います。ぜひとも、私は一企業マンとしてですけども、一緒になって、今のパンデミックを乗り越えた先に、ぜひこのレガシーが輝かしい社会づくりになることを願っています。

以上です。

#### ○長江会長

ありがとうございます。

須田委員、お願いします。

#### ○須田委員

まず、皆さん、本当にご苦労さまでございました。オリンピックに関しましては、私は職員の頃から、また観光協会としても、委員としての関わり方、あと職員としての関わり方、それから、様々な事業の受託元としての関わり方という関わり方を行ってきました。その中で一緒に苦労することとかたくさんありましたけれども、それを乗り越えて、最初は3人ぐらいで始まった小さな担当室が、最終的には大きくなって、皆さんで頑張っていて、何とかこのオリンピックという事業自身が無事に終わったのはすごくよかったなと思っています。そういった意味で、この資料で言うと平成26年ぐらいからになっていますけれども、ドミニカ共和国とは、その前から関係は始まっておりまして、そのときの地域の交流からホストタウンの選択、それからオリンピックというふうにならんと歩みを自分なりに経験してきたので、よりそういう思いとして非常に強く感じております。感想みたいな話で申し訳ないのですが、皆さん、どうもありがとうございました。

#### ○長江会長

ありがとうございます。

西機委員、お願いします。

#### ○西機委員

まず、7年前、このような会議体を設置されるということでお声がけいただきました。大学を代表して参加させていただきましたが、本学の学生たちもいろいろ貴重な体験もさせていただいて、本当にありがとうございました。会議の中では、常にレガシー、レガシーと言って、この先のことというこ

とを発言させていただいていました。実際にワールドカップラグビーがあって、その後、オリンピックがあって、同じように学生を巻き込んで盛り上がるかなと思っていたのですが、そのタイミングに学生だった大学生の年代の若者たちはなかなかいろいろなことが体験できないまま過ごしたと思いますが、またこのオリンピックがやってくる、あるいはこれからもスポーツがいろいろなビッグイベントも含めた中で、今後も、学生に限らず、地域や、夢の教室とかでいろいろプログラムを受けている地元の小中学生とかともっと本当に関わりを持てるのは、コロナ禍が落ち着いたこれからだと思います。これを機会に本学も、茨城県とこちらの松戸に両方にキャンパスがありますけれども、こちらの松戸のキャンパスのほうにどんどん学生も増えていっているような状況もありますので。スポーツの資源も龍ヶ崎のほうにあるのですけれども、人はたくさんあっち側にいますので、ぜひこちらでももっと交流を、大学としても両キャンパスの交流をもっと活性化させたいというような思いもございますので、こちらに示していただいていますように、スポーツにおいても、国際においても、それから、地域づくりということで、政策においても、どの面でも引き続き大学としてはいろいろな機会をいただきたいと思っておりますので、今後もお力添えいただきたいのと、我々としてもご協力できることをしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございます。

#### ○長江会長

ありがとうございます。

伊藤委員、よろしく願います。

#### ○伊藤委員

細かいところも含めて幾つかあるのですけれども、まず、この報告書、非常に詳細で、将来にわたって記憶をずっと維持するという意味でも非常にいい資料をつくっていただいたということ、どうもありがとうございました。

それから、レガシーにも絡むのですけれども、特に両国からのいろいろな選手を事前キャンプで呼んだりとか、いろいろな計画があると思うのですが、これまではコロナのこともあって、せっかく呼んでも市民との交流がほとんどできなかったもので、これからそういう制約がなくなれば、市民との交流についていつも念頭に置いてやっていただきたいと思っております。

それとの関連で、七草マラソンについてはコロナでできなかったというのがあるのですが、恐らくこれからできるようになれば、ルーマニアの選手を呼ぶのか、あるいは、こだわらずにほかの海外からの選手を呼ぶのか、いろいろ考えがあるかと思うのですが、ぜひ継続してやっていただいて、それに合わせて市民交流もやっていただけるような形で進めていただければと思います。

それから、ドミニカ共和国とルーマニアとの交流で、今後ホストタウン講演会をやるとか、市内のイベントでのいろいろな両国の文化紹介とか、これにつ

いては既にやっているのですけれども、その前に両国についての市民の関心が、今回のオリンピックが終わってしまって、何かしぼんでしまうのではないかなというようなことがあるので、引き続き、ドミニカ共和国とルーマニアのことを、市民に対しての広報に努めるといことが大事だと思います。そういうことになった場合の、特にホストタウン講演会については、外務省のほうで、両国の大使を経験して戻ってきた人とか、そういう方を呼ぶとか、外務省はそういうのに対して非常に協力的ですので、喜んで来てくれると思います。しかも、松戸市は都内から非常に近いところですので、日帰りで帰れますので、そういう機会にそういう方を活用して、講演会とか何かイベントなんかに参加してもらえよう、できるだけそういうことを活用して、いろいろなことをやっていただければと思います。

それから、最後に千葉県の事業ということだったのですけれども、オリンピック教育推進校ということで、中学校の幾つか、それから、小学校、今までいろいろなことをやってきたと思うのですが、せっかくそういう伝統というか、経験があるので、これからもそういう学校を引き続いて何か巻き込んでやっていけるような、そういう事業に声をかけて、参加してもらおうとか、やっていただくようなことも、引き続きやっていただければと思います。

以上です。

#### ○長江会長

ありがとうございます。

個人的な感想になってしまいますが、第19回の推進会議ということで、7年に及んでこつこつと積み上げて、松戸市は努力されて、結果を出されたということ、本当にお疲れさまでした。そして、携わらせていただいたことが大変自分にとっても経験として意義深いと思います。

実は1964年のオリンピックの当時、小学校5年生でしたが、その当時の松戸市のオリンピックとの関わり方と言いますと、一部の小学生はオリンピックを見に行けたのかもしれませんが、私の学校ではそういうことは難しく、学校で白黒のテレビを見て体験したというのが自分の印象です。

それに引き換え、今回のコロナ禍のオリンピック開催という苛酷な状況の中でも日本は開催することができ、そして、長年にわたって小中学生が、あるいは大学生がいろいろな形で経験を積めたということはすばらしいことではないかと思ひます。このレガシーを続けていただけたらというのは、委員の皆さんと同じ気持ちです。前のオリンピックのときは、あくまでオリンピックだったので、今回のオリンピックは、オリンピック・パラリンピック、両方とも報道されましたし、実際にテレビで見ることができましたし、松戸市出身で活躍しているオリンピックで金メダルを取られた須崎さんもそうですけれども、羽賀選手もパラリンピックのほうでも活躍をされているということで、両方に目配りができるような形で、この推進会議のほうも、両方にちゃんと持続可能

な社会の中でしっかりと目配りをしていただき、物すごく幅広くいろいろなことをされて、なおかつドミニカ共和国とルーマニアの交流ということで、本当に大変だったと思いますけれども、それがしっかりと根付いていただきたいなと思っています。

それから、先ほど「のびゆく松戸市」というのがありましたが、これはただの副読本ではございません。私も小学生のときに「のびゆく松戸市」で育ちました。戦後すぐぐらいから、この「のびゆく松戸市」が刊行されておりまして、地域に密着した意識を高めるということで、松戸市はずっとやってきているわけです。その中に今回のオリンピック・パラリンピックのページが加わるということはすごくありがたいことだと思いますし、小学校3年生は母国語が大体固まるぐらいの時期で、意識的にも非常に地域に対する意識というのが幅広く深くなりつつある時期ですから、ただ紙で書いてあるよというのではなく、ぜひ教育の中で役立てていただきたいと思います。それから、今回は4大学が連携、協力して、オリンピック・パラリンピックの特にスポーツを通して国際化に寄与することができたのが、何よりありがたいと思います。

それから、つくづく、平和でなければオリンピックはできないという、そういうことから言うと、今、大変痛ましいような状況もありますけれども、その中でも人々が絆を持って前に進んでいくという夢と希望を目指せる一つの大会であったかなと思うので、紙だけでなく、映像も残っていると思いますから、ぜひ教育に役立てていただいて、また先ほど伊藤委員がおっしゃったように、交流をどんどん続けていただけたらなと思います。よろしく願いいたします。

それでは、最後に、そのほか何か質問とかご意見とか、委員の皆様方、ありましたらよろしく願いいたします。

#### ○西機委員

レガシーの取組ということで、業務を引き継ぐ課それぞれが今までやってきたことを引き継ぐというようなことで、このオリンピック推進課は解散されるということですよ。

#### ○事務局

はい。

#### ○西機委員

こういうことはないと思うのですが、私もワールドカップのほうで、どうしても、課がなくなって、次に行くと、なかなか継続しようとする、部署が替わって、担当の方もいらっしゃらなくて、全然話が通じなくなる自治体さんと、引き続きすごく熱心にやっていただける自治体さんであるのですが、先ほど最後も言いましたけれども、大学としても、いずれの課とも連携すべきだなと思っているのですが、やはりこれまでやった何年間を引き継いだ中でお話をご相談するときに、4月以降、どのようにご相談したりするのが

一番よろしいのかなというご質問というか、ご相談です。

#### ○事務局

ありがとうございます。確かに当課はなくなりますが、今回、報告書を作成させていただきましたとおり、こういったノウハウですとか、人的な交流も含めて継続はしてまいりますので、そういった点では心配しないでいただきたいなと思っています。メインとなりますのは、この4大学ですとか、人のつながりというところが今回の大きな財産になったと思いますので、政策推進課というところで総括的なイメージで進めるといいます。今の段階ではそういったところでは考えております。ぜひ4月以降でももしお話があればご相談いただきたいと思っておりますし、こちらからも何かあればご依頼したいなど、相互に協力体制でやらせていただきたいと思っております。

#### ○西機委員

ぜひよろしく願いいたします。

#### ○事務局

前回、千葉の国体があったときとかなども、うちの職員、市の職員が関わった、そういった職員のノウハウというのも今回生きていたりとかしますので、それは引き継いでいく、レガシーとしてそれも大切なものだと考えています。

#### ○長江会長

よろしいでしょうか。

ほかにございますでしょうか。事務局から何かございますでしょうか。

#### ○事務局

最後に、挨拶としまして、今回、東京オリンピック・パラリンピックを通しまして、人が夢中になれる何かとか、先ほど尾崎委員のほうからも、困難な状況を打開、打破していくような状況に挑み続けるとか、そういうような取組とか姿勢というのが、やっぱり人を輝かすのかなということを今回実感しました。ただ、レガシーと言われますように、これを継続していくのは、それをお互いに認め合い、できないことはできないであったりするのだけれども、それをいろいろな人々の協力、そういったものがないとやさしい環境、多様性を認め合う環境というのは育たないと思います。今回、松戸市の基本方針の中で、基本理念としてうたわせていただいているのが「やさシティおもてなシティ推進」ということでございました。まさにこの精神をずっと踏襲してきて、結果、それが表れたのではないかと感じるどころです。それをもって大会成功にもつなげられたのかなと感じております。ただ、これをやはり大切にして、今後も継続していけるような形で発展させていきたいと考えております。机の上に折れてしまった桜を飾っておりますけれども、しっかりと咲きました。コロナ禍でちょっとつまずいたところでも、どんどん毎年毎年花がつくような形で進めたいと思っておりますので、今後とも松戸市政にご協力いただいて、皆さんで、いい松戸市をつくっていききたいと考えております。

長きにわたり、本当に委員の皆様には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ○長江会長

ありがとうございました。

それでは、推進会議はこれで終了となりますが、7年もの長い間、19回にも及ぶ会議ということで、委員の皆様方にはご協力いただきましたことを心から御礼申し上げます。コロナを正しく恐れて、コロナだからできないではなく、コロナだからこそ工夫して行うという松戸市の職員の皆様方、お疲れさまでした。実際にホストタウンと言っても、国々によっては来れない、あるいは受け入れないというような自治体もありました。その中で松戸市はドミニカ共和国もルーマニアも来ていただくことができました。これはすごい成果だと思います。事務局の方々におかれましても、オリンピック・パラリンピックで事業を終了することではなく、オリンピックレガシーとして引き続き取り組んでいただきたいと心から思います。これまでの皆様方の努力によって推進会議のほうも終了することができましたこと、誠にありがとうございました。

以上でございます。ありがとうございました。